

# 令和2年度 地域づくり研修会 アンケート集計

## Q1・Q2 性別・年齢

	男性	女性	合計
～20代	2	3	5
30代	1	0	1
40代	11	1	12
50代	7	3	10
60代	6	1	7
70代～	2	0	2
合計	29	8	37

## Q3 基調講演の内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	13	35.14%
よかった	18	48.65%
普通	6	16.22%
あまりよくなかった	0	0.00%
よくなかった	0	0.00%
合計	37	100.00%

## Q4 パネルディスカッションの内容はいかがでしたか？

	回答数	割合
大変よかった	17	45.95%
よかった	18	48.65%
普通	2	5.41%
あまりよくなかった	0	0.00%
よくなかった	0	0.00%
合計	37	100.00%

## Q5 今回のテーマに関し、皆様の活動において、新型コロナウイルスの感染拡大による影響や、それを踏まえて今後の活動に当たり考えていることを御記入下さい。

- ・とにかく新型コロナウイルス感染症が終息しないと何も出来ないが、少人数での事業を進めていきたい(新北海道スタイルで)。講演を聞いて新型コロナウイルスに負けないで頑張りたいと思った。
- ・Webの活用を考えている。
- ・現在コロナ禍により、令和2年度の地域の祭りや事業が休止及び中止になり、過疎地域は特に人の動きがなく地域衰退が加速している中、オンラインを含めて今回の研修を参考にしていきたい。
- ・具体案はないけど、このコロナ禍を鑑みた活動の糸口を見つけ出すために、新しいものにチャレンジすることは大事だと思う。なのでこの研修会に参加して良かったと思う。
- ・20年続いていた「田んぼの学校」が全て中止になった。小学生を対象に実施していた土地改良施設の見学会も中止になった。新型コロナウイルスの影響はとてもあるんで、令和3年度の活動については不明である。
- ・もう少し感染拡大が終息することを待つ必要はあると思う。しかし過去とは違う活動手法も取り入れる必要はある。
- ・行政として今回のディスカッションであったとおり、様々な視点から支援していく必要があると思った。
- ・新型コロナウイルスの影響で指導員の地域活動やブロック会議が中止になるなど、制約が多い状況の中、今回、リモートで参加をしたが、コロナ禍でも情報発信や意見交換の場が設けられたことが良かったと思う。悪天候の中でも研修会が出来たので、今後はリモートにより、今まで参加できなかった指導員も参加しやすくなると期待している。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大が無ければ、web会議の必要性も感じなかったと思う。また、web会議が普及するとweb端末及び会場の確保が難しくなるため、早めの連絡調整が必要となってくる。(今回の会場確保ができなかった。)
- ・地域のイベントが中止になったことで活動の機会が狭まった。他にも高校との連携や有志の大学生を募っての作業体験等の企画も考えられていたが、見通しがたたなくなった。それらを踏まえ、予定していた活動を延期すること、またイベント以外の活動(地域の連携促進等)に注力することといったことが検討されている。
- ・屋外活動が主(小学生の田植え、稲刈り、川の生物調査等)なので、あまり密にならない活動ではあるが、感染対策を施し実施している。今後も、感染対策を施し、実施していきたい。
- ・令和2年度は本当に模索しながらの活動です(継続中)。6月の自粛解除後、行った伝統食の料理教室はデモンstrーション、講演、持ち帰りBOX(ランチ)と7月開催にしては先端をいっていたと思う。屋外での収穫体験や材料を渡して作った物をデータで貰うという宿題型食育活動など工夫しながらも「歩みを止めずに」きた。延期にしてしまった年末の講演会(中止になりましたが)も北海道スタイルを充分に守った開催準備だけだっただけに残念です。映画の方は3月4日に同じ会場で開催予定。伝統食の味噌づくり教室も今月2回とアレルギー食対策料理教室を1回やります。コロナ禍で困っている方々が多い中、産後育児で家にいて鬱になりそうなママへの声かけでの味噌づくり。今後 必要な対象になっていくと来年度も計画に入れたところ。メンバーとの会議はLINE動画会議。ぜひともZoomに関するサポート(容量など)と中止になった講演会のサポートをお願いしたい。
- ・今回のようにZOOM等による非接触型の研修会や取り組みが多くなると思う。

- ・感染対策を十分にし、できる範囲で地域活動を行いたい。
- ・やはり、この状況の中でできることを考えてやっていくのが良いと思う。できることは限られるが、前向きに取り組んでいけたらと考えている。
- ・各活動に関し、三密を避けることを前提に検討しており、主に活動組織が主体となり判断している(非常事態宣言時は除く)。現時点では、特に感染拡大に至っていないが、現況の消息を願っています。
- ・行政からオンライン整備に協力いただくと良い方向に進めると思う。
- ・物事が変わる現状になっている中で、それに合わせ仕事の仕方や考え方もアップデートし、適応力が求められていると思っている。それを今回の研修会で示して頂き、私の考え方が間違いでは無いと確信したところ。生き残り(進化)の為には馴れていく、馴れさせる事を考えながら、ふる水の取組が出来たらと思う。
- ・会議や講習会をリモートで行うことで、現地への移動時間や経費を削減できるので良いと思う。
- ・会議、会合などが開催するのが難しい状況にはなったが、「集まって会議をやらなくても問題なく進める方法はある、今までの会議の形式にこだわることはない」ということに気づかされる。基調講演にもあったが、コロナ禍で学ぶこと、変化していくことに前向きに取り組みたいと思う。
- ・組織における目標の認識や新たな商品開発の時間を作る。
- ・昨年は室内で開催していた即売会を、感染防止の対策をとりながら屋外で開催した。いろいろな事が中止になり、来て下さる方々も「たまに外に出れて楽しかった」と言って頂いた。今年も屋外で実施したいと思う。産直の方は特にコロナの影響はない。
- ・ミーティングやワークショップでZoomを利用する機会が多くなった。今後は現地開催とWeb開催の併用が不可欠になってくると思った。そうすると町外の方との連携の可能性が広がるので地域づくりの方法も再検討したいと思っている。

#### Q6 その他、お気づきの点や今後、地域づくり研修会で取り上げてほしいテーマ・内容などがありましたら、ご記入ください。

- ・多面的機能支払交付金、中山間直接支払制度について。
- ・パネリストの発表時間が10分だと短いような気がする。せつかくの資料が足早な説明になる。もう少し聴きたい。
- ・北海道にいても、なかなか行けないところも多いので、色々なところの情報が聞けて良かった。色々なところの農泊、食育体験授業などもっと聞きたい。
- ・バーチャル宿泊や観光など、コロナ禍でも新たな活動方法を事例報告して取り上げて頂いたので、今後の参考にさせて頂きたい。
- ・仲間の作り方と行政への要望の仕方。相談相手が見つからない。一人で何もできない状態。また、町役場は、余計な相談事をしないでほしい姿勢があり、困っている。
- ・Web参加者にはチャットで質問や意見をあげてもらい、必要に応じて音声通話にした方がいいと思う。
- ・Web開催だと、どこでも参加できる便利な面もあるものの、ただ参加している状況になる。特に今回は回線安定のためカメラオフだったので、ただ一方的な配信となってしまったのではと思う。本別について谷口さんの報告は、持ち時間10分に41枚(当日さらに増えていたように・・・)でしたが、地域の指導員の方が中心となり、地元の方と地域振興に取り組んでいる「ふる水事業の軌跡」を示されたものだったと思う。
- ・これまでふるさと・水と土保全対策事業に関わったことがないため、これまでこの事業の発足した経緯や目的など簡潔にでも説明いただけるとありがたい。パネリストの方々の個別の取り組みについて貴重な話を聞くことができただけに、パネルディスカッション時に出席者から質問が特に出ないなど少々寂しいなと感じた。
- ・Zoomでお話したかった事はいっぱいありましたが、チャットでは書ききれず断念した。豆フォーラム(国際マメ年)を過去に開いた経験があったのでぜひ頑張ってもらいたいと伝えたかった。八雲の方には、お話の中でフランス人が滞在中とのことでしたが、27日に私達が実施する味噌づくり教室へ申し込みされている方々と思い、一言「つながってますね」と伝えたかった。
- ・パネルディスカッションでの赤井氏からの意見で「新型コロナの影響により、まだまだ続けてほしいけど廃業に追い込まれる飲食店が増えるのが怖い」「新しいこと(チャレンジ)を行うための支援をお願いしたい」との言葉が印象に残った。確かに、新型コロナで様々な沈んだ分を取り戻すためには、それ以上、または新たなこと(チャレンジ)を行わないと難しいと思うし、その様に前向きに考える人の支援は非常に重要なものでは思った。
- ・山本先生、谷口氏・赤井氏・佐藤氏の報告で共通する意見としては、SNSやオンライン〇〇の重要性。コロナ禍でもオンラインを活用することにより新たな試みも可能となる。しかし、特に高齢者や不得意な人は参加できなくなるのが課題。このことより、本研修会でもSNSやオンラインに特化した研修内容にするのも今後は必要なのではないか。例えばオンラインやSNSを活用した成功事例や行政に求めるSNS活用。または、技術的な勉強会的なもの。
- ・情報発信について

・初めてZoomを使用した会議に出席しましたが、事前の周知のお陰もあり支障なかった。途中、進行が滞った場面もあったが、これまでは中止されていたことが開催されたこと、佐藤氏がリモートでディスカッションに滞りなく参加できたことについては、同様の会議の在り方について参考となった。

・Zoomでの打合せや会議などは、この状況の中では非常に有効であり、また、管内や管外の指導員同士の打合せや情報共有の手段として非常に有効であると思われる。このことからZoom等の取扱に係る講習会を指導員を対象として出来れば良いのでは？

・今回、オンラインで参加させて頂いた。パネルディスカッションがスムーズに出来たら良かったと思った。コロナの中で新しく取り組みをはじめたことがある方々や地元で活躍されている方々の話が聞きたい。

・講演を聴くだけならオンラインで十分と思う。会場後ろからのカメラと講演者をアップカメラで撮影する方法は空気感こそ伝わりませんが、会場の様子が分かり良いと思った。オンライン参加者は皆さんクローズにしていたが、少人数ならオープンにすると臨場感が増すかとも思う。

・スライドの展開も早く、素晴らしい活動であるのは伝わるのですが、もう少し具体的なところを知りたかった(特に谷口さんの活動)。

・イベントに焦点を当てるのは面白いが、人がたくさん係わると思うので、誰がどういう動きをしたかとか、行政はどのような動きをしたかとか、どんな事業を使ったかとか、成果発表会になりがちですが、背後にある行政側目線の講演会があっても面白いかと思った。

・地域づくり団体のほとんどが補助金をメインとした事業になっているように感じる。地域づくり自体が活動収益に繋がったり、メインとなる収益事業をやりながら地域づくりも行っている事例など見てみたい。